様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　７日現在

機関番号：32808
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：　平 成 22 年 度　～　平 成　24 年 度
課題番号：　22530768
研究課題名（和文）　子どもと大人の絆を深める心理教育プログラム CARE の実践と効果研究

研究課題名（英文）　Research on the CARE program for enhancement of the relation　between child and adult.

研究代表者　福丸　由佳（FUKUMARU YUKA）
白梅学園大学 子ども学部 教授
研究者番号：10334567

研究成果の概要（和文）：心理教育プログラムCAREの実践とその効果を実証的に検討することを目的に、里親などの養育者や、児童養護施設などで子どもとかかわる専門家を対象に、実践と実施前後の効果測定を行った。その結果、子どもの問題行動の減少、子どもとの関係改善において、CAREが現場での支援プログラムとして有効性があることが示された。これらの結果を報告書にまとめ、印刷・出版した。CAREの実践は現在も継続しており、今後も多様な現場における専門家向けの研修や、行政による子育て支援の取り組みの中などで活動を行っていく。

研究成果の概要（英文）：This research was conducted the practice of psycho educational intervention of the CARE program and also the empirical effect research of before-and-after survey to parents including the foster parents and professionals who work with children at children’s nursing home. The result showed that CARE was so effective in building a relationship with children and also in decreasing the children’s behavior problems. These results were published in report. The CARE program is still currently continued to be practiced. We are going to continue to practice in a variety of settings in future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
22 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
23 年度	900,000	270,000	1,170,000
24 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：心理学
科研費の分科・細目：臨床心理学
キーワード：CARE、心理教育、親子関係、子育て支援、専門家支援、里親、虐待、トラウマ

１．研究開始当初の背景

児童虐待や育児不安など、現代の子育てをめぐる問題への対策が重要性を増す中で、海外から導入されたプログラムをはじめ、心理教育的な実践も増えつつある。しかし、それらはスタッフの専門性や経験に左右されることが多く、内容や方法もいまだ試行錯誤的な段階のものが少なくない。また、実施されるプログラムが親の子育てのスキルや肯定的な感情を増すことにどの程度関与できているのか、支援の効果に関して十分な確証は得られていない。支援の有効性の検討を含めた数量的効果測定を行った上で内容や方法を改善し、実践を行うというアクションリサーチ的な研究と実践のあり方が、我が国においても急務であり、また、海外で開発されたプログラムの導入に際しては特に、我が国の社会・文化的な実情にあった改良や効果研究が重要かつ、不可欠である。

２．研究の目的

上記の現状を踏まえ、ハイリスクな環境にある親、さらにハイリスクな環境の子どもとかかわる大人を含む、親・専門家を中心に、子どもとの絆を深めるための基本的かつ、統合的な支援プログラム「CARE(Child- Adult Relationship Enhancement):子どもと大人の絆を深める心理教育的介入プログラム」の実践と効果研究を行うことを目的とした。

３．研究の方法

研究の対象）本研究の対象は、上記の目的から大きく２つにわかれている。まず１つ目が、１）子育て支援の場における親・養育者である。これは、さらに、通常の親向けの実践に加えて、子育てでより困難を抱えている親・養育者(母子生活支援施設や医療機関などにおける実践)の双方を含む。2 つ目が、多様な現場で子どもとかかわる専門家・スタッフという対象である。

方法）上記の２つの対象に対して、それぞれ CARE の実践と事前･事後の調査を行った。実践は、全体で 4 時間の研修を現場のニーズに応じて実施したが、その多くはフォローアップを含めた複数回にわたる実践である。CARE トレーナーの資格を持つ専門家(臨床心理士、医師、児童福祉士など)が、現場に出向き、CARE のマニュアルに沿ってロールプレイを用いながら研修を行った。実践終了後にはプログラムの内容と研修に対する振り返り評価を行った。

調査は、CARE の実践の前とフォローアップ終了後、および実践から 3 ヶ月後の 3 時点で行った。内容は、子どもの問題行動について問う尺度（ECBI)、親のストレスを問う尺度（PSI)、専門家向けには職業上のストレスを問う尺度、子どもとの関係の認知を問う尺度(15 項目)を用いて比較を行った。

４．研究成果

ここでは、親・養育者向けのもとして里親への実践について、専門家向けのものとして、児童養護施設での実践について、主に述べる。まず、里親向けの実践からは、CARE で扱うスキルに対して、9 割の里親が子育てで有効に活かせると感じており、ロールプレイから具体的に学べるといった CARE の有効性に対する肯定的な意識が示された。また、フォローアップ研修でも里子との関係の変化や問題行動の減少などが具体的に語られるなど、子育て場面で実際に活かしていることがうかがえた。一方、里子に特有の試し行動などに示されるように、関係構築については時間をかけていくことも重要であり、すべてのかかわりを CARE の視点からとらえることのないよう、心理教育の限界も踏まえた実践が不可欠であることも示された。

次に、児童養護施設の職員に向けた研修に

ついてであるが、こちらもフォローアップを含めた2回の実践と事前事後の調査を行った。その結果、まず、プログラム全体の評価としては、CARE であつかう内容について、全く新しい知識というわけではないが、理論的根拠が伴っている点、非常にわかりやすく整理されており子どもとのかかわりに実践しやすいといった肯定的な評価が高かった。また、フォローアップを通して、実際の子どもとのかかわりでの用い方を改めて確認できるなど、複数回の実践による定着率の高さも示された。さらに、効果研究からは、子どもの問題行動の減少において有効な結果が示され、その効果は3か月後の時点でも同様であった。一方、集団場面での用い方など、CARE の特色を踏まえつつ、対象や現場によってどのように汎用させていくかという課題も新たに見出された。

これらの実践と研究から得られた知見を踏まえ、新たな改良も加えつつ、今後も CARE プログラムの実践と研究を継続していく予定である。なお、上記の知見および、医療現場での親向けの実践、母子生活支援施設での親向けの実践、個人面接場面での活用、保育現場での保育士向けの実践について、効果測定も含めて報告書にまとめて出版した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

1. 印刷中　福丸由佳「被虐待児への治療的アプローチ―心理教育的介入プログラム CARE によるアプローチ」児童青年医学とその近接領域　日本児童青年精神医学会編
2. 2013 福丸由佳「子どもと大人の絆を深める心理教育プログラム CARE の実践と効果研究」　科学研究費補助金　基盤 C 研究成果報告書
3. 2011 福丸由佳　「里親に向けた心理教育的介入プログラム CARE（Child-Adult Relationship Enhancement）の実践」白梅学園大学・短期大学紀要第 47 号 p.1－13
4. 2011　福丸由佳「心理教育的介入プログラム CARE(Child-Adult Relationship Enhancement)の導入と実践：これまでの取り組みと今後の課題」　トラウマティック・ストレス第 9 巻第 1 号別刷フィールド便り
5. 2009　福丸由佳　「CARE プログラムの日本への導入と実践―大人と子どものきずなを深める心理教育的介入プログラムについて―」　白梅学園大学短期大学教育福祉研究センター研究年報 1423-28.

〔学会発表〕（計 7 件）

1. 2012.3.　福丸由佳・安藤智子　「里親を対象とした CARE（Child-Adult Relationship Enhancement）の実践―子どもと大人の絆を深める心理教育的プログラム CARE の実践と効果研究―」　日本発達心理学会第 23 回大会　口頭発表　名古屋国際会議場
2. 2012.1.22.　大原美知子・熊谷珠美・福丸由佳　「母子生活支援施設入所者を対象とした CARE の試み」第 1 回 PCIT - Japan CARE - Japan 合同研究会　抄録集　口頭発表　東京女子医科大学　第一臨床講堂
3. 2012.1.22.　緒方広海　「地域における『CARE』の実践～保健センターとの連携から～」　第 1 回 PCIT - Japan　CARE - Japan 合同研究会　抄録集　口頭発表　東京女子医科大学　第一臨床講堂
4. 2012.1.22.伊東史ヱ・丹羽まどか・加茂登志子・氏家由里・福丸由佳「医療現場にお

け る Child-Adult Relationship Enhancement(CARE)の実践報告」 第１回 PCIT - Japan CARE - Japan 合同研究会 抄録集 口頭発表 東京女子医科大学 第一臨床講堂

5. 2012.1.22. 福丸由佳 「多様な現場における CARE の実践～その試み、工夫、効果について～」 第１回 PCIT - Japan CARE - Japan 合同研究会 抄録集 口頭発表 東京女子医科大学 第一臨床講堂
6. 2011.8. Y. Fukumaru, S. Ando, T. Kamo. Implementing the CARE Program in Japan. The American Psychological Association, Washington, D.C.
7. 2010.8.22 福丸由佳 「大人と子どもの絆を深める CARE プログラムの実践と課題」 日本家族心理学会第 27 回大会 こどもの城会議室 906 ポスター発表 抄録集 p.103

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 1 件）

名称：CARE-Japan
Child-Adult Relationship Enhancement
発明者：
権利者：魚住（福丸）由佳
種類：商標権
番号：5487196
取得年月日：平成 24 年 4 月 13 日
国内外の別：国内

〔その他〕
ホームページ等

http://www.care-japan.org/

６．研究組織
(1)研究代表者
福丸由佳（FUKUMARU YUKA）
白梅学園大学 子ども学部教授
研究者番号：10334567

(2)研究分担者
加茂登志子（KAMO TOSHIKO）
東京女子医科大学医学部教授
研究者番号：20186018

(3) 研究分担者
安藤智子（ANDO SATOKO）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科
准教授
研究者番号：90461821